



# 初節分祭



菅公が太宰府においてなくなられたあと、菅公を神として尊崇する天神信仰が全国にひろがりました。当社も菅公の霊を合祀し、「服部天神宮」として社殿を造営し、「菅公脚氣平癒の靈験」を伝え聞いた全国よりの参詣人と、また当地が能勢街道の要所であったことと、次第に門前市をなすようになり、殊に江戸時代中期から末期にかけては、その最盛期であり、境内外は非常な賑わいをみせたのです。

「少彦名命は、神代の昔、大国主神と協力して国土を治められ、さらに遠く海外の地をも巡られてこの世の生きものたちのために医薬の方法を定められ、また生きものにとりついて苦しめる邪霊を祓う方法も定められました。この時より今の世に到るまで生きとし生けるもので、この二柱の大神のご恩をこうむっていきたくないものはおりません。このように尊い少彦名大神にお祈り申しあげますならば、かならずやおみ足具合も良くなると思います。」  
 このように申し上げる村人の言葉にうながされた菅公は、少彦名命をまつる天神祠へとむかわれました。

秦氏の人々がこの地に移り住んでから数百年が過ぎ、時は延喜元年（西暦901年の春）右大臣菅原道真公は、無実の罪をきせられて九州太宰府へ左遷される途中このあたりまで来られて持病の脚氣に悩まされ足がむくんで一歩も歩けなくなりました。その時、村人たちは少彦名命をおまつりしてある天神祠に詣でて、足病の平癒を祈願されるようにおすすめていました。



足の神様 服部天神宮「御祭神由緒」